

公表

事業所における自己評価結果

*令和6年度は、訪問事業の実績がなかったため、評価対象者がいなかった。
本事業については、職員間で自己評価を実施し総括を行った。

事業所名 札幌市かしわ学園

公表日 令和7年 2月 17日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点
体制整備・環境	1	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	15	0	利用希望者は、いなかったが、児童発達支援センターとして各事業と併せて職員は、適正配置を行う。	
	2	訪問支援に使用する教具教材は適切であるか。	15	0		
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	15	0	PDCAサイクルを基本に業務改善を図っている。	
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	0		
	5	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	0	会議や打ち合わせを通して業務改善を図っている。	
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	15	外部評価は、義務ではないので、実施していない。内部監査等の結果を職員全体で情報共有し、改善に努める。	
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	15	0	子どもの見立てや知識、情報の把握等職員の資質向上のための各種研修を受講している。幼児が専門のため、当事業の対象者が幼児期以外の場合は、専門的な研修受講が必要と考える。	
適切な支援の提供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	15	0	実施する場合は、アセスメントを行い計画書を作成する	
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	15	0	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問支援を行っている職員以外多職種（ST・栄養士・看護師）も参加し作成する。職員が共通理解し取組む。	
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	15	0	訪問先施設や担任の意向も盛り込んだ保育所等訪問支援計画になるように訪問先施設職員と意見交換ができる関係性を築くように心がける。	
	11	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	14	1	保育所等訪問支援員になりうる職員全体での内容の確認はできていなかったため、園全体での理解が必要と考える。	
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	14	1	当事業では、インフォーマルなアセスメントを十分に行うことは難しさもあるが、保護者や訪問先施設職員からの聴き取りでの実施、またフォーマルでは、遠城寺式発達検査等で確認を行う。	
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	15	0	ガイドラインに則って支援内容を設定する。	
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	14	1	今年度は、事業実績がなかったが、保育所等訪問支援員になりうる職員全体での内容の確認は不足していた。園全体での事業の理解が必要である。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	15	0		

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	15	0	
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	15	0	
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	15	0	
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	15	0	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	15	0	
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	15	0	札幌市子ども発達支援総合センター（ちくたく）にあるため、医療との連携は、図りやすい。その他の関係機関とも必要に応じて情報共有をに努めたいと考える。
	22	就学等の移行の際には、保育所等や学校との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	0	必要に応じて、実施する。
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	15	0	保育所等訪問支援に特化してのものではないが、研修に参加し、それを職員間で共有し、質の向上を図っている。
	24	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	13	2	こども部会に積極的に参加して職員はいたが、組織として会議等への参加については、課題がある。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	15	0	今年度は、事業実施実績は、なかったが、当事業についての相談や過去に利用者とは、定期的に連絡を取り、共通認識に努めた。
保護者等への説明等	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	11	4	保育所等訪問支援を契約している保護者向けのものは行っていなかったが、ちくたくで行っているペアレントプログラムへの参加など、必要に応じて紹介することは、可能である。
	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	15	0	利用契約時に説明を行い、不明な点があれば、補足で都度説明する。
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	15	0	丁寧な説明を行っているが、保育・教育現場での当該サービスに関する知識、理解はなかなか進んでいない。 訪問支援を行う際は、訪問先に目的等の説明を行うように努める。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	15	0	事業実施に当たっては、子どもが中心ではあるが、保護者がキーパーソンになり、それぞれに丁寧に細かく関わっていく必要がある。保護者が高い目標を伝えてくる場合もあると思うが、そこに向かうまでのスモールステップの道筋についての説明を丁寧に伝えることが大切になるのではないか。
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	15	0	保育所等訪問支援を契約している保護者向けのものは行っていなかった。
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	15	0	
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	15	保育所等訪問支援を契約している保護者向けのものは行ってない。
33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	15	0	相談や申し入れがあった場合には、迅速に対応できるように体制を整えている。	

	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	0	15	当事業に関しては、利用者が限定的なため、必要としていないが、指導発達センターとして、活動概要など伝えていくことは、今後検討したい。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	15	0	個人情報の取り扱いについては、個人情報の保護に関する法律、札幌市個人情報保護条例、その他関係法令等を遵守し適正に取り扱っている。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	15	0	子どもや保護者に対して、個々に伝わりやすい言葉を意識して話すようにし、場合によっては視覚的効果を狙った手法を用いることもある。
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	15	0	訪問支援は勿論、訪問先からの相談があった場合は、迅速に対応し、一緒に対応策を考えることができるよう、支援を行っている。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	14	1	都度報告し、カンファレンスの実施には相手方の受け入れも必要のため、事業についての説明や理解が必要と考える。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	15	0	必要に応じて、保育所等訪問支援の実施後保護者等に状況を伝え、情報共有に努める。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	15	0	個人情報の取り扱いについては、個人情報の保護に関する法律、札幌市個人情報保護条例、その他関係法令等を遵守し適正に取り扱っている。
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	15	0	互いの業務について理解しあい、相談や連携を取る中で信頼関係を築く。
非常時等の対応	42	事業所として、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し発生を想定した訓練を実施しているか。	15	0	児童発達支援センターとして、各種マニュアルを策定し内容については、定期的に検討し、修正をし、訓練も実施している。
	43	事業所として、安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	15	0	安全計画を作成し、訓練を行っている。
	44	事業所として、ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	15	0	事業所として、ヒヤリハット事案を適宜打合せで共有している。重大な案件については、臨時の会議などで迅速に検討し、改善することになっている。
	45	事業所として、虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	15	0	虐待防止委員会が設置されており、研修を実施している。
	46	事業所として、どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定しているか。	14	1	身体拘束等適正化委員会が設置されており、組織として身体拘束等適正化のための指針が整備されている。